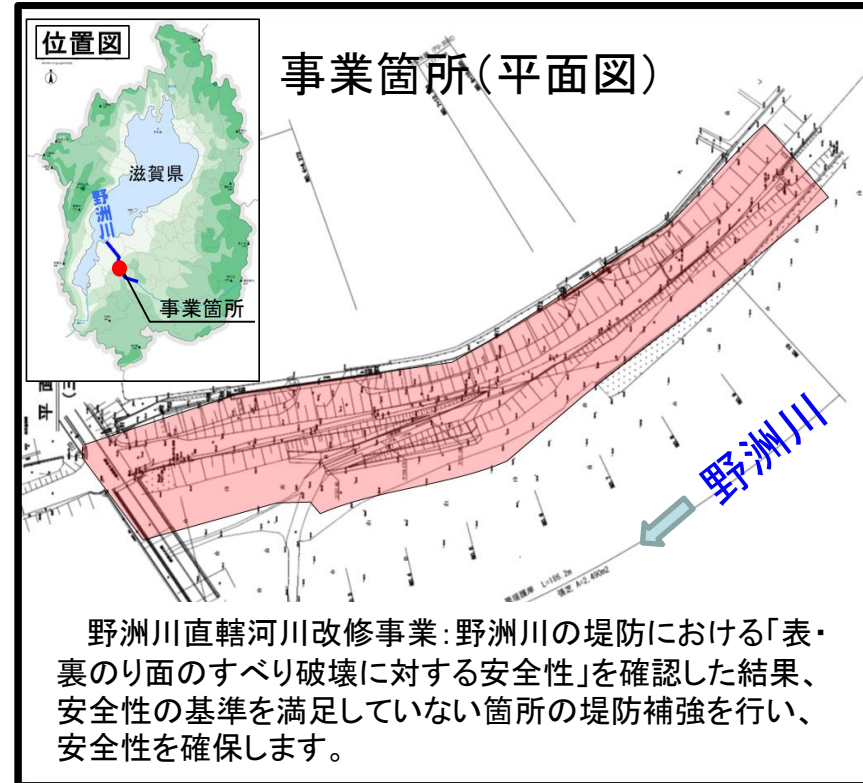


● 景観形成の目標像

周辺の景観を保全するよう整備する。

- ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
盛土部及び掘削部は現況堤防を復元しつつ景観への影響を軽減するため、法面に植生を行った。
- ② 細部設計、材料等の選定の考え方  
景観上、違和感がないように、法面は既設の堤防になだらかに擦り付けた。



(事業後)

(事業前)





## ● 景観形成の目標像

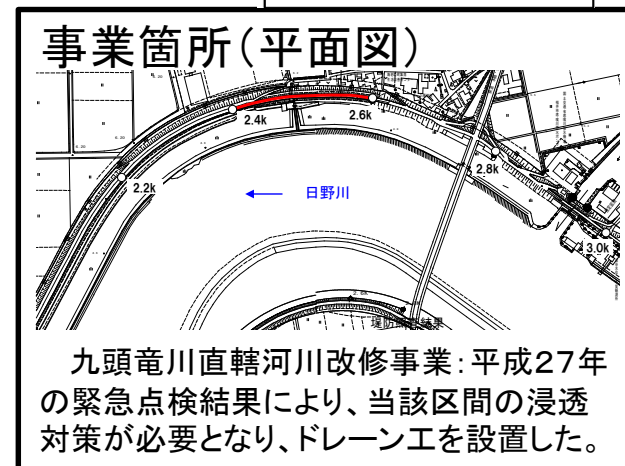
河川及び周辺の自然景観と調和した河川空間

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

整備による景観への影響を軽減するため、法面は既設の堤防になだらかなにすりつけ、植生を行った。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

- ・周辺の自然景観と調和させるため、現況の法面と同等勾配で復旧し、植生を行った。
- ・擁壁の嵩上げをできるだけ低くし、堤脚部の改変を極力抑えた。



(事業前)

(事業後)



① 景観への影響を軽減させるため、法面をなだらかに摺付け、張芝工を実施



② 現況の法面と同等勾配で復旧し、植生により周辺景観と調和させ、ドレーン高を極力低くし、堤脚部の改変を軽減

## ●景観形成の目標像

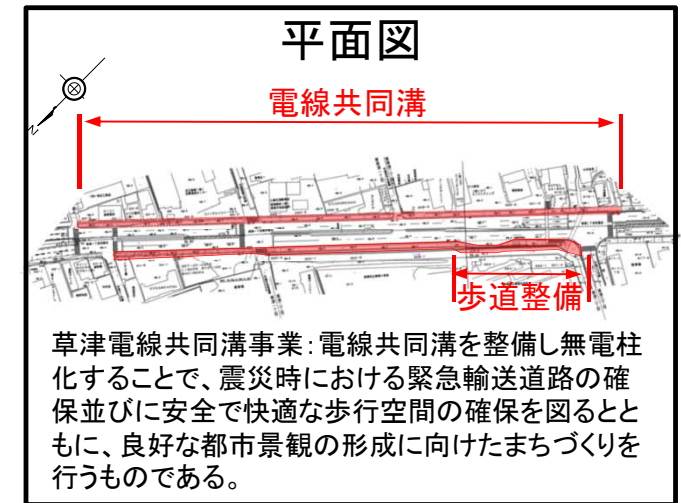
市街地景観を基調とした道路空間の形成

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

景観に配慮した防護柵の整備ガイドラインに基づき、シンプルな形状とするとともに、透過性の配慮、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインや材質を選定した。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

景観配慮型防護柵のマスタープランにある色彩計画に基づき、ダークブラウンを採用した。



(事業前)



(事業後)



①



②



## ●景観形成の目標像

防護柵色調の統一を図る区間となる景観的基調のゾーン選定により、田園・集落ゾーンとして整備する。



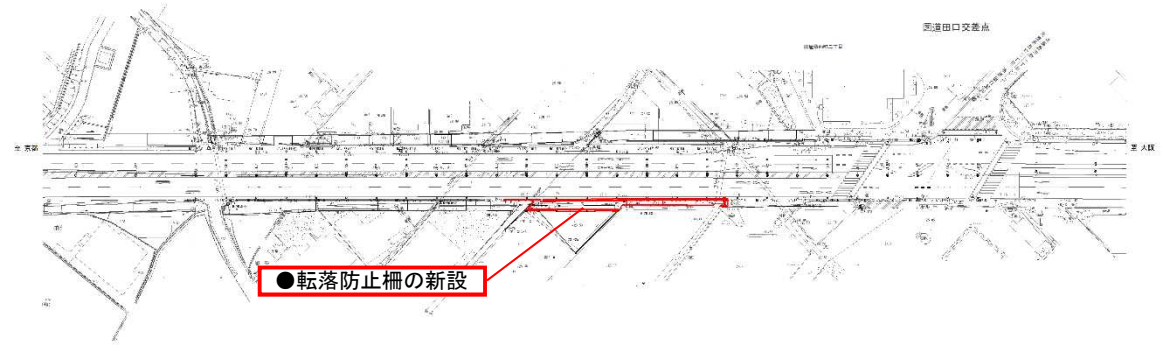
## ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観に配慮した防護柵の整備マスタープラン(案)」に基づく防護柵を選定し、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインでシンプルな形状とした。

## ②細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵の色彩は、周辺の景観と調和するダークブラウンとした。

国道1号枚方市出屋敷元町地区自歩道整備： 自歩道拡幅工事で、自歩道整備を実施した。



(事業前)



(事業後)



①



②



## ● 景観形成の目標像

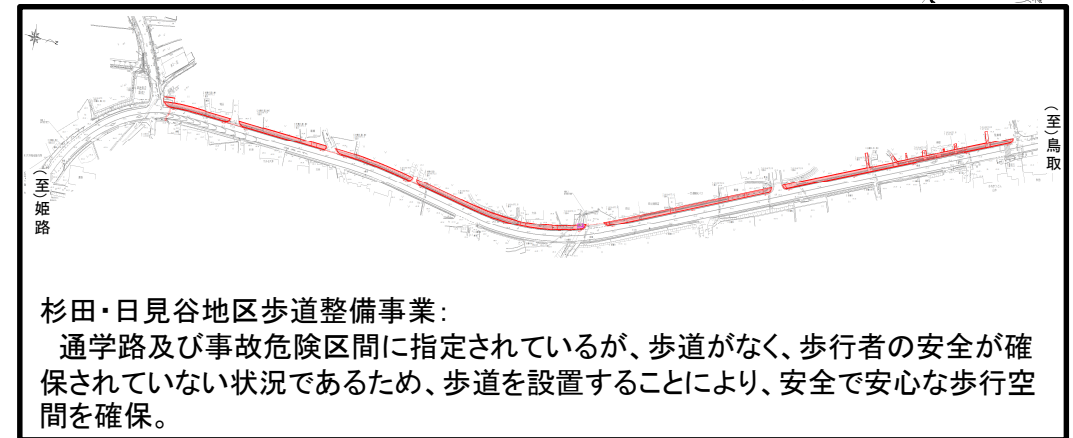
山地ゾーン(田園・集落地)を通る道路で、周辺の景観を考慮した歩道整備を行う。

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵を景観に配慮したグレーベージュ(薄灰茶色)とした。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

シンプルな形状とするとともに、透過性の配慮、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインや材質を選定した。



杉田・日見谷地区歩道整備事業:

通学路及び事故危険区間に指定されているが、歩道がなく、歩行者の安全が確保されていない状況であるため、歩道を設置することにより、安全で安心な歩行空間を確保。

(事業後)

(事業前)



## ● 景観形成の目標像

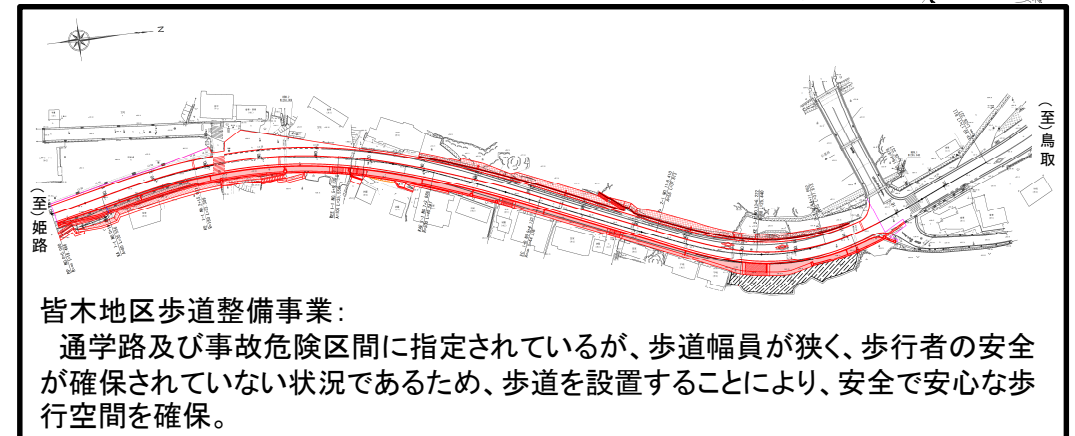
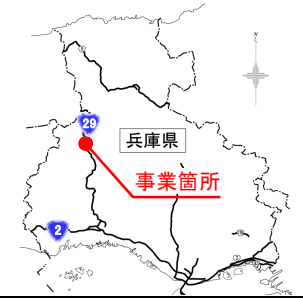
山地ゾーン(田園・集落地)を通る道路で、周辺の景観を考慮した歩道整備を行う。

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

防護柵を景観に配慮したグレーベージュ(薄灰茶色)とした。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

シンプルな形状とするとともに、透過性の配慮、存在感の低減、人との親和性に配慮したデザインや材質を選定した。



(事業後)

(事業前)



## ●景観形成の目標像

都市部らしい町並みを形成しながらバリアフリー化を行い、安全で利用しやすい景観空間を形成する。

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

駅からの人の動線を確保しながらも周辺の地域景観に配慮した位置で計画し、機能面と景観面の両立を図るため、歩道境界ブロックの前出しを行い、施設は基礎構造を小さくできる鉄骨造を採用した。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

存在を主張せず、軽いイメージで、耐久性に富み、機能性に優れ、開放感を与える明るいイメージをコンセプトとし、外壁コーナ一部に曲線を用いて、壁面にはガラス窓を設けた。

(事業前)



(事業後)



## ●景観形成の目標像

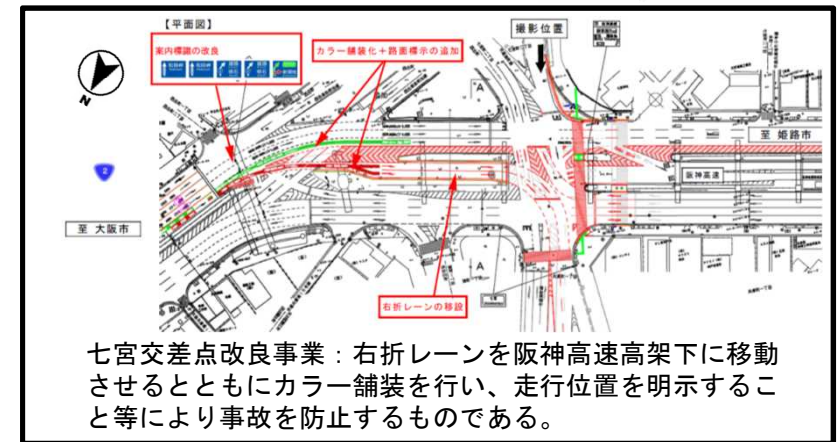
都市部らしい町並みを形成し、車道部と歩道部を明確にし、安全で利用しやすい景観空間を形成する。

- ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
防護柵は統一感を持たせ、歩行空間と、周辺空間と調和させるため、防護柵及び縁石の構造を国道と本事業で影響する市道で統一した。
- ②細部設計、材料等の選定の考え方  
色彩に気を配り、周辺空間と違和感がないよう配慮した景観色（ダークブラウン）とした。

（事業前）



（事業後）





## ● 景観形成の目標像

周囲の景観と美しく調和して、観光地にふさわしい道路

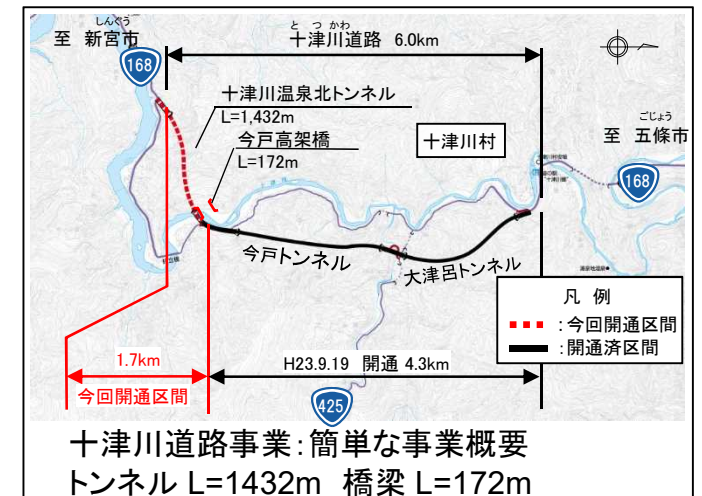
### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

圧迫感の軽減のため、橋脚、桁、橋台、坑口規模の縮小。  
河岸の地形改変量の縮小及び土砂流出防止のため、下部工規模及び施工方法等を検討し、橋台規模を小さくすることで地形改変の規模を小さくした。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

橋脚数の低減、桁高を3mから2~4mにすることにより  
圧迫感の低減を図った。

事業箇所



(事業前)

(事業後)



## ●景観形成の目標像

・市内の住居密集地区の景観に合致した道路空間の形成

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

・沿道住民の利便性及び前後歩道整備区間の連続性を考慮し、道路東側の歩道(マウントアップ型)・乗入れの形態と合致する構造とした。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

・門型標識の色について周辺環境を考慮し、  
ダークブラウンを採用した

(事業前)

(事業後)

